

6

■アカショウビンのさえずりが新緑の森に響く

奥胎内 (北蒲・黒川村)

■環 境：山地
 ■対 象：一般
 ■期 間：5月下旬～
 7月中旬

胎内川上流に広がるブナ林は鳥相が豊かで、朝はアカショウビン、夜はコノハズクの声が聞く。イヌワシ、クマタカをはじめ70種を超える野鳥が観察でき、県内屈指の探鳥地。

〈一日と葉色は濃く夏鳥は増す〉

5月下旬、沢に残雪が残る一方で、ブナの緑も増し、いたるところ鳥があふれる。まずはヒュッテ周辺をのんびり歩くのがお勧め。

溪流沿いの木立にはオオルリが競い合って鳴いている。ダム湖には、餌(えさ)探しに懸命なオシドリ、時々ヤマセミが韋駄天のように通りすぎる。岸辺ではキセキレイが、あっちに行ったりこっちに行ったり。冷たい水に潜っているのはカワガラス。山手のブナ林から「キョロロロ〜」と、アカショウビンが近づいてく

る。ブナ林では、キビタキがノドをふくらませてさえずり、シジュウカラ、ヤマガラはすでに子を連れている。ブナの幹を器用におりてくるゴジュウカラ、大きなドラミングはたぶんオオアカゲ



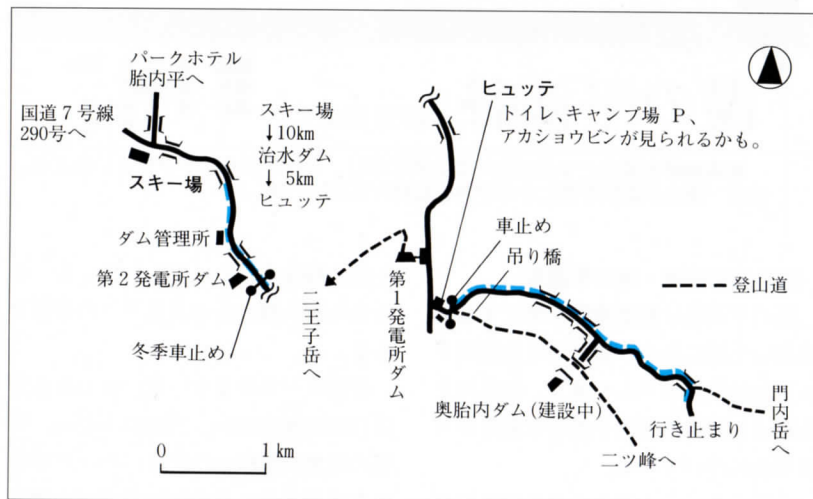
新緑の奥胎内

ラ。ヤブサメの声に後ろ髪をひかれながら、林をあとにする。センダイムシクイ、ウグイスの歌声もにぎやかに満ちている。

日差しはもう夏に近い。あの紋付きはブッポウソウ。りょう線の枯れ木で鳴いているツツドリ。上空にはトビや場合によってはイヌワシに会えるかもしれない。

〈夜鳴く鳥と出会う〉

奥胎内では「夜の探鳥会」が名物となっている。場所は治水ダムや上流のカーブか、ヒュッテ周辺がポイントと



なる。

車のエンジンを止めたら、道路の中央を歩こう。ライトは禁物、ただし不慣れな人は赤色のフィルターをかぶせ、足下を照らしていくとよい。でも本当は夜のヤミを体験すると発見も多い。耳を澄ますと神秘的なコノハズクの声が、あっちの沢からひとつ、向こうからふたつ「ブッキョソー」と聞こえてくる。道路拡幅前は真上で鳴くこともあったが最近はやっと遠くなった。アオバズク・フクロウもいる。「十一」鳴き声そのまま名前になったジュウイチも鳴いている。ホトトギスの声も聞こえてきた。口笛のような声の正体はヌエといわれるトラツグミである。

〈もっと奥胎内を知りたいあなたに〉

秋の登山もお勧め。各種猛禽(きん)、

ヒタキ類、ホシガラスを見ることがができる。また冬の静寂の中でワシ・タカ類を待つのも趣がある。(布川耕市)

メモ

交通 入り口のスキー場付近までバスはあるが、ヒュッテまではさらに15kmある。平日は、奥胎内ダム工事関係のダンプカーが多いので、注意が必要。積雪のため、ヒュッテまでの道路開通は例年5月下旬ころになる。

☐ ヒュッテ等に止める。路上駐車は危険。トイレは、ヒュッテ・治水ダム。ヒュッテ周辺にキャンプ場。

探鳥会 役場主催で、6月上旬行われる。

問い合わせ先：黒川村商工観光課

☎0254-47-2711

観光施設は多く、パンフレットをもらうのが得策。昆虫の家もある。